
人形戦争劇

台風X号

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

人形戦争劇

【Nコード】

N2436P

【作者名】

台風X号

【あらすじ】

キッズウイン達が主演の作品です。フロッグマン達は敵です。

第一話 争いの始まる頃に（前書き）

さあ、腹筋崩壊注意の愉快痛快の作品をござらんあえ！

第一話 争いの始まる頃に

人形達がいる世界は、とある不思議空間「榛拳」と言う場所である。

この場所では、キッズウイン、モコ、ネココ達は、ジャスティスチームであり、フロッグマン、キモエリザベス、ラッティーはヴィランチームとなっている。

人形戦争劇 小説主題歌 戦慄のコメディー

ヴィランチームは、なんだか変な作戦を立てていた。

「キモエリザベス、もつと右、左、下、上、違ってもう少し真ん中だつて言つてんだよ馬鹿野郎！」

フロッグマンが貧乏ゆすりをしながら命令をしていた。

「五月蠅いわね！フロッグマンのピー！」

「てめー、そんな言い方はねえーだろが喧嘩でも売っているのか！」

竜牙とアンタレスという虎と熊は、会話をしていた。

「騒がしいと思わないか？」

「ああ、今に台風X号の本名をばらすぞ・・・」

アンタレスの言うとおり、キモエリザベスが台風X号の本名をばらした。

「フロッグマンは知らないと思うけど、小説家になるつもりでいるんなら多ジャンルで東方シリーズやタイフーンマンズなどを手掛けているのは誰だと思ってるのよ。」

「台風X号だろ・・・」

「その本名よ。」

「それ言ったら理不尽な扱いを受けるぞ！」

「五月蠅いわね！フロッグマン。台風X号の本名は浅山智彦なんて口が裂けても言わないわよ！」

「お前言ったぞ。」

「何よ？」

「浅山智彦って・・・」

おまいらは、何を言ってるんだー！

ジャステイスチームでは・・・

ネココとチワワとコイルとニョロトリオがキッズウィンの作戦を厳しくチェックしていた。

モコとサンバッタとモカとキリマンジャロと赤道ちゃんは、キッズウィンに何かを報告しに行った。

第一話 争いの始まる頃に（後書き）

次回 第二話 潜水艦氏ね号発進。お楽しみに。ってキモエリザベ
スとフロッグマンよくも俺の本名をばらしてくれたなよってお前等
は、デプコンの新作で酷い目にあわしたる。

第二話 潜水艦氏ね号発信

モコとサンバッタとモカとキリマンジャロと赤道ちゃんは、キッズ
ウインに報告していた。

「なるほど、敵軍は潜水艦を作っていたのか。」

「どうしますか？」

「よし、作戦変更だということを伝えに行ってくる。」

一方、敵軍のフロッグマンは潜水艦の調子を見ていた。

キモエリザベスは、潜水艦を潜水させた。

「??? ?????? ???? ????」

潜水艦から、そのような警告音が流れた。

「この馬鹿、キモエリザベス。勝手に潜水させやがって。」

「私悪くないわよ。竜牙のせいよ。」

「貴様勝手なことを言いやがって。」

「Non combattere。」

潜水艦に向かって、フロッグマンが言った。

「うるさい！このくそ潜水艦。」

「

！」

「御見それしました。」

「ロシア語が分かったのかよ。」

アンタレスは、フロッグマンに突っ込みを入れた。

第二話 潜水艦氏ね号発信（後書き）

次回 第三話 激突か？衝突か？沈黙か？。お楽しみに！

第三話 激突か？衝突か？沈黙か？

モコ達は、戦闘態勢に入っていた。

潜水艦の中では・・・

「何よ、私がきれいだというのに。」

キモエリザベスは怒っていた。

「キモエリザベスは放射能を使う能力を持っているだけでなく奇妙な空気を作り出す能力を手に入れたからわけが悪いんだよ！」

フロッグマンは呆れていた。

「全く、俺達の仲間ときたらこうだよ。下らないことで喧嘩になるのはガキ同然。このままでは、ペンギン総統様にどう言えばいいのだ。」

「敵が見えたぜ。キッズウイン率いる6名の軍だ。」

「奴等をもつと馬鹿だな。俺達は16名もいるんだぞ。」

その時、ペンギン総統から通信が入った。

「お前等、出撃準備はできているのか？」

「はい、できています。16名全員一致であります。」

「信用できない。」

「なぜだ！」

「ロボットを8体用意しておいた。お前等は援護をしてやれ。」

ペンギン総統からの通信が切れた。

牛帝は、イライラしていた。

「何でロボットの援護しなければならねえんだよ！」

「知るかバーカ。ハハハハ。ここはひとつロボットの援護に回りましょうぜフロッグマンの旦那。」

「お前等、うるさい！」

「怒られたー」

一方その頃……

「何か来るぞ！」

キリマンジャロは何かに気がついた。

そしてロボットたちが現れた。

第三話 激突か？衝突か？沈黙か？（後書き）

次回 第四話 作戦崩壊と行動決裂。お楽しみに！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2436p/>

人形戦争劇

2011年9月14日10時51分発行